

高校教員が中学で授業

高校教員が中学校に出向いて授業を行う動きが、県内で広がっている。高校側にとって学校の魅力をPRする場となり、中学校側にとって受験を控えた生徒の意欲を高めるといった狙いがある。こうした新しい形の「中高連携」は教員にとっても学びの場となりつつあるようだ。(水嶋佑香)

新“中高連携”広がる



磐梨中で数学の授業を行う瀬戸高の笹塙教諭(右)。高校の魅力アピールや中学生の勉強への意欲向上につながっている

男性教諭が、中学生たちの視線を浴びながら切り出した。「高校ではこんな授業をします」。白や青のカード2枚を生徒に手渡し、「机に置いた白のカードの裏が白である確率は?」と投げ掛けた。

10月下旬。赤磐市立磐梨中の3年B組で数学の授業を担当したのは瀬戸高(岡山市東区)の笹塙圭亮教諭。

これが同中の狙いの一つだ

った。単なる学校紹介ではなく

高校1年向けの「条件付き確率」からの出題で画像を交

して解答を説明すると、生徒たちは大きくなっていた。

「高校の授業は難しいイメージが強かつたが面白くて分

かりやすい。進学が楽しみになつた」。金光烈汰さん(14)は

受験に向け力が湧いたとい

う。

中学校と高校のこうした連携が増えてきたのは、ここ数年のことのようだ。背景には少子化で高校側の生徒確保が難しくなっている事情がある。多くの場合、受験前の3年生が対象で、授業内容は5教科のみならず、職業選択などキャリア教育まで幅広い。

5年ほど前から教員を派遣しているのは真庭高落合校地(真庭市)だ。今夏は同市立の落合中と北房中を訪れ、国語、数学、英語の授業を実施。備前陽高(備前市)は今年から理科の実験や美術などの出前授業を企画し、希望する中学校を募っている。

磐梨中で授業した笹塙教諭は、他にも赤磐市の高陽中、

櫻が丘中でも指導した経験がある。心掛けてるのは分か

りやすい授業で高校のPRをすることだけではない。「入

学後に『こんなはずではなかつ』というミスマッチを減らしたい」との思いがあると

く、一歩踏み込んで「生徒の刺激になるような授業を」と要望したところ、今年の7月と10月に公私立12校の高校教員が授業に訪れてくれた。

■

近隣中学校を訪問している

双方の教員にもメリットは少くない。

■

倉敷南高(倉敷市)は今年、7人の教員が登壇した。生徒と授業で触れ合ったり、中学校教員と意見交換したりする機会が増えたことで「生徒が中学時代にどんなことに苦手意識を持っているのか、高校で手厚く指導すべきポイントは何なのかといったことに気付いた教員も多い」(同校)という。

■

磐梨中では、高校教員が授業する際、必ず数人の教員が見学することにしている。「高校の授業の視覚的な見せ方や、理解させやすい進め方など得るものは大きい」と山本正広校長は手応えを感じている。

■

倉敷南高の山下陽子校長は、実感を込めてこう話した。「授業は義務教育と高校の悩みを共有し、解決していくきっかけになる。子どもたちのため大切なのは、中高の教員同士が顔の見える関係をつくっていくことだと感じている」

(C) 山陽新聞社 無断複製・転載を禁じます。